

教育委員会だより

令和5年10月26日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

響き渡る歌声・感動体験 ～多治見市小学校音楽祭～

コロナ禍により令和元年度から中止していた音楽祭。10月18日(水)には、4年ぶりにバロー文化ホールの大ホールで開催することができました。市内13校の4年生が午前・午後の部に分かれ、素敵な歌声を響かせてくれました。

練習の成果を一杯発表する姿はもちろんのこと、期待感に溢れ笑顔で来場する姿、発表前の緊張感、発表後の安堵感、他校の仲間に惜しみない拍手を送る姿など。どの場面を切り取っても“感動体験”という言葉がピッタリでした。学校を離れ、他校の仲間と接して過ごした時間。いつもの学校生活とは異なる環境での活動は、強く心に残ったに違いありません。



印象的なひと言。「音楽祭ができなかった5・6年生の思いも込めて歌います！」そして、審査講評をお勤めいただいた北栄小学校の國府田校長先生からも「みなさんの歌声に、涙が出てきてしまいました。」というお言葉。会場にいた大人は、一様に同じ思いだったことでしょう。素敵な歌声を披露してくれた子供たちと、それを支え育ててくださった先生方に改めて大きな拍手を送りたいと思います。

下半期に向けて～多治見市教育行政評価委員会①～

10月20日(金)に、本年度第1回の教育行政評価委員会を開催しました。事務局からは、第3次多治見市教育基本計画に基づく上半期の取組を報告しました。その後、名古屋大学 石井拓児 教授を委員長とする5名の委員の皆様から、施策1～5についてご意見をいただきました。食育、体力や部活動、地場産業との関連、幼児教育や保護者支援、不登校対策、いじめ問題等、内容は多岐に渡りましたが、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただくことができました。

いただいたご意見・ご示唆を踏まえながら、子供たちのため、学校のために下半期の各施策をさらに推し進めていかねばならないと考えています。

学び続ける教師と子供 ～市之倉小学校研究発表会～

10月25日(水)、さわやかな秋晴れにも恵まれ、市之倉小学校の研究発表会を開催しました。本発表は、令和4・5年度に東濃地区教育推進協議会と多治見市教育委員会の指定を受け、『学級経営』の充実を目指して取り組んだものです。

研究主題「楽しいがあふれる学級 ～仲間とともによりよい生活を目指し、主体的に活動する児童の育成～」の具現に向け、主な内容として、①見通しをもって進める学級経営の工夫、②主体的に考え思いや考えを伝え合う話し合い活動の工夫、③互いを認め合う心を育てる工夫の3点に取り組んでられました。

公開授業は、学級会における話し合い活動でした。どの学年でも司会・副司会・書記の役割が位置付き、議題と提案理由から自治的に話し合いがスタートしました。学年の発達の段階によって話す内容や考えの質は異なりますが、どの子ども自分の考えを進んで発言し、仲間の意見に真剣に耳を傾けていました。

“話し合って折り合いを付ける”ということは、子供に限らず良好な人間関係を構築するための重要な能力といえます。そんな力を小学生期から意図的・計画的に育むことは、大変意義ある取組みです。

今回の指定を機に、市之倉小学校の先生方は真摯に実践に取り組まれました。そして、その成果は子供たちの育ちとして結実しつつあります。

「学び続ける教師と子供」であることの大切さや素晴らしさを、市内外の多くの先生方と改めて学ぶことができた貴重な機会となりました。



副教育長のひとりごと「つなげる・つながる」

10月17日(火)、『感謝と挑戦のTYK体育館』において、大相撲の秋巡業が開催されました。その会場に、南ヶ丘中学校生の姿がありました。校長先生曰く、偶然、多治見場所巡業関係者に出会う機会があったそうです。日頃から校区の文化や人、施設とつながりたいと考えていたので「生徒にも見せたい！」と話したところ「ぜひ、招待したい！」とトントン拍子に話が進んだそうです。生徒は、大きな力士の迫力だけでなく、相撲道に向かう真摯な姿勢からも多くを学ぶことができたようです。校長先生の熱い思いとアグレッシブさがもたらした、生徒の素敵な時間でした。写真の生徒は、何を話したのでしょうか？

